

国際シンポジウム

「展示室で語る『日本美術』」

2020年2月1日（土）

東京国立博物館 平成館大講堂



開催趣旨

人・モノ・情報が地球規模で行き交うようになり、ミュージアムを訪れる人たちもさまざまです。その多様なバックグラウンドを持つ人たちが、展示室で出会う「日本美術」は、今、どのように受け取られているのでしょうか。「日本」が指し示している枠組みが大きく揺さぶられている現在、日本美術についても以前のように固有のイメージで語られることは、少なくなってきました。その多様な内容を要約して、日本美術の本質に迫ろうとすることは容易ではありません。

今回のシンポジウムでは、日本美術を複眼的に捉えるという観点から、観念的な議論ではなくミュージアムにおける展示に即した内容について紹介していただきます。「モノ」を通じて、「歴史」と現代との対話を真摯に紡いでゆく場がミュージアムです。それぞれの発表者は、ミュージアムの学芸員として、自らの文化や環境に基づいて「日本美術」の展示を作り、さまざまな来館者と向き合っています。展示を作る側も見る側も、それぞれが思い描く「日本美術」があり、そこに唯一の正解はありません。この国際シンポジウムは、多様な視点に立って見た「日本美術」を語り合い、それぞれの立場で意見交換し、互いに認め合う場にしたいと考えます。この機会が、「日本美術」の多彩な価値を共有し、共に理解し合うためのきっかけとなりましたら幸いです。

東京国立博物館 調査研究課長
河野 一隆

国際シンポジウム「展示室で語る『日本美術』」

2020年2月1日（土）

東京国立博物館 平成館大講堂

9：30-10：00	受付
10：00-10：15	開会 主催者挨拶 銭谷眞美 東京国立博物館長 司会 河野一隆 東京国立博物館 学芸研究部 調査研究課長
10：15-11：15	基調講演 吉田憲司 国立民族学博物館長 「日本美術はいかに語られてきたか？ —欧米の美術館・博物館の中の日本—」
11：15-11：55	発表1 フランク・フェルテンス フリーア美術館 日本基金アシスタント・シニアキュレーター 「アメリカの国立アジア美術館 —フリーア美術館の日本絵画コレクションの展示と収集について」
11：55-13：30	昼休憩
13：30-14：10	発表2 スティーブン・サレル ホノルル美術館 ロバート・F・ランジ財団日本美術キュレーター 「木目に反して：日本版画への非伝統的な探索、解釈、そしてその先にあるもの」
14：10-14：50	発表3 カーン・トリン チューリッヒ・リートベルク美術館 日本・韓国美術担当学芸員 「海外における日本美術の特別展企画」
14：50-15：30	発表4 松嶋雅人 文化財活用センター企画担当課長/東京国立博物館 「「マルセル・デュシャンと日本美術」展における日本美術の過去に例のないプレゼンテーション」
15：30-15：45	休憩
15：45-17：05	パネルディスカッション モデレーター 鬼頭智美 東京国立博物館 学芸企画部 上席研究員
17：05-17：20	閉会挨拶 島谷弘幸 九州国立博物館長
